

- ・模擬会社「夢追プロモーション」設立 東村ゼミ
 - ・国際交流とビジネス探求 ミャンマー訪問 P.1
-
- ・伊勢の「高柳の夜店」に四日市大学が出店
 - ・大学キャンパス植栽調査
 - ・「地パト」発足から1年 P.2

- ・学生による大学活性化企画・・・総合政策学部
 - ・被災者の方々の心ケア「四日市東日本大震災支援の会」
 - ・「外国人による日本語弁論大会」で特別賞受賞 P.3
-
- ・よっかだいエコ活動が地域イベントに参加
 - ・「ETV よっかだい」がHPを公開
 - ・テニスコートがリニューアル P.4

模擬会社「夢追プロモーション」設立 東村ゼミ

2011年度、経済学部の東村ゼミでは、東村篤教授の本意—2つの CIP0 (Chief Intellectual Property Officer 知的財産統括責任者・Chief Initial Public Offering・株式新規上場準備統括責任者・略称 DiPO) 人材が絶対的に不足、戦略的に先導できる起業型リーダーが地域イノベーションを創発—を汲み本年1月、「新年度からゼミで模擬会社を立ち上げよう！」ということとなった。

4月27日(金)、東村ゼミで「模擬会社 夢追プロモーション設立総会&記念講演会」が学内で行われた。東村教授から背景説明のあと、発起人を代表して代表取締役の中村一真さん(3年)は「私が模擬会社を興した理由として、地域社会が疲弊しており、我々学生が率先して学内外で雇用の創出となり得る活動をし、地域を活性化したいと思ったのがきっかけでした。大学という知の結集を最大限活用することにより、地域資源を見出し様々な付加価値を創り出すことが使命であると考え、“まちを元気にする大学”を具現化すべく活動をより多く知っていただき、四日市大学を‘選ばれる大学日本一’にしたい。が大きな目標。最終的には模擬会社では惜しいと思ってもらえるような会社を作り上げたい。」と設立に至った経緯、抱負を語った。

社員は、代表取締役社長の中村さんをはじめ、専務取締役 落合利奈さん(3年)、取締役管理本部長 野村光平さん(3年)、取締役営業本部長 森亮太さん(3年)、取締役国際本部長 メアスヴィサルさん(3年)、取締役〔管理〕 修遠さん(3年)、取締役〔営業〕 蔡松涛さん(3年)、監査役〔常勤〕 東村教授が就任した。初年度事業計画として①大学キャンパスの KaYoU (Knowledge act Youth old Universal) ステーション化、②商店街空き店舗を利用したの経営実践、③金融、環境、後見、知財等普及・啓蒙教育広報を目的に KaYoU 劇団HiT一座結成、④地域製品の開発を展開していく方針。今後の活動に期待したい。

国際交流とビジネス探求 ミャンマー訪問

3月24日(土)から30日(金)までの7日間、経済学部の岡良准教授、はじめ谷祐貴さん(経済学部3年)、オッカー ピョーさん(環境情報学部2年)が、三重県中小企業家同友会北勢支部エボリューション探求会のみなさんと混成チームを結成し、国際交流とビジネス探求を目的として、ミャンマーを訪問した。現地では、ミンガラドン工業団地を見学したり、現地の外国語大学の日本語学科の学生たちと交流したり、また、ヤンゴンにある小中学校を訪問し、「MovieZoo」の学生たちが作成したビデオを使いながら、折り鶴の折り方を披露した。

現在、ミャンマーは軍事政権から民主制へと変革が進められており、現地に到着するまでいろいろ心配もしていたが、親日家も多く親切な人ばかり。食べ物もとても美味しくいただいた。

参加した学生が、この現場での経験を活かし、本学のキャッチフレーズでもある「世界を見つめ地域を考える」人材になっていくことと期待したい。



伊勢の「高柳の夜店」に四日市大学が出店

6月3日(日)、伊勢の中心市街地で開催された第96回「高柳の夜店」に四日市大学が出店した。大正時代から続く歴史ある夜店であり、当日は日曜日ということもあって、中学生や高校生・家族連れなど多数の人出で賑わった。主催者発表では約1万5千人が商店街を訪れたとの事。

四日市大学のブース内では、各学部のパネル展示を行い、「MovieZoo」、「ETV よっかだい」、「伊勢竹鶏物語」等の映像を流した。また、販売では、伊勢竹鶏物語でつくった卵やケーキを販売した。好評だったのは、本学の研究機構に所属している関孝和数学研究所が作成したパズル。中学生・高校生が夢中でチャレンジし、行列ができるほどだった。また、東村ゼミ・岡ゼミは共同でフリーマーケットを行った。長い歴史もあり、市民に親しまれているこの夜店「四日市大学の日」と書かれたチラシが大々的に配られ、市民や高校生の方から「夜店に新しい風を入れてくれた」「名古屋の大学に行かなくても県内の大学も魅力があると感じた」「まちを元気にしてくれそうな大学と感じた」など生の声をいただいた。翌朝の商店街の早朝清掃では、ゴミがほとんどないことに町内役員の方々は驚き、四日市大学生がゴミを丁寧に拾ってくれたおかげとの声が上がったようだ。



大学キャンパス植栽調査

5月25日(金)午後、大学キャンパスの植栽調査が行われた。環境情報学部の高橋ゼミを中心に作業が行われ、植物の同定(植物種名の特定)については、四日市大学自然環境教育研究会の保黒時男理事長の指導を受けた。四日市大学の敷地は自然林や竹林に囲まれており、自然環境に恵まれたキャンパスとなっている。学生には格好の教材だが、植物は多種多様で、専門家でないと見分けが付きにくいものも多数あり、学生や教員の手で、誰でも容易に分かるように植物名を表示することになった。

参加した学生らは、8号館入口から雨水調整池に至る遊歩道(約100m)の周囲にある樹木の名称、特徴、見分け方などについて、保黒氏の説明を聞きながら進めた。1時間の調査で、ヤマハゼ、ハンノキ、ヒサカキ、コナラ、アカメガシワなど約40種類の樹木が同定された。木々には仮の名札が取り付けられ、今後は長期保存が可能な名札に順次取り換えていく予定。



「地パト」発足から1年

地域の防犯・地域住民との交流を目的に、2週間に1度、定期的に四日市のあさけが丘団地をパトロールしている「四日市大学地域パトロール(地パト)」が発足し1年を迎えた。リーダーの伊藤弘人さん(総合政策学部4年)は、「始めたばかりの頃は、不審者に思われたこともあったが、最近では、声をかけられることも多くなったし、後継ぎの後輩も育ってくれた。欲張って地域を拡大せずに信頼関係やつながりを大切にしたい」と語った。また、今後の先導役を引き受けた後藤大輔さん(総合政策学部2年)は、「先輩が築いてくれた地域の方との関係をさらに深めていけるようイベントを開催するなどして、防犯意識を高めてもらえるようにしたい。」と話した。

学生による大学活性化企画・・・総合政策学部

総合政策学部では去る6月13日(水)、「学生による大学活性化企画」の選考会を行った。この事業は、四日市大学が地域と連携する活動や、学生の実力を向上させる活動などを、任意の学生グループが企画し、実行するもので、1企画上限5万円の補助がある。2010年度からスタートし、今年で3年目となる今回は、入学後わずか2カ月の1年生グループから意欲的な企画が出るなど、新しい広がりがみられた。選考会では、総合政策学部の全教員が審査員となり、学生から約5分のプレゼンテーション、その後、教員から5～10分の質問という形式で行った。そもそも、活動が地域のニーズに合っているのか、活動をどのように進めようとしているのかなど、鋭い質問が次々に出されたが、学生らしい珍妙な回答に一同爆笑するなど、楽しい選考会になった。各教員が事業の的確性10点、予算の妥当性5点の持ち点で審査した結果、全企画が合格となった。今回はやや応募が少なかったため、4企画程度を再募集し、さらなる学生の活動支援を行うことになった。



被災者の方々の心ケア「四日市東日本大震災支援の会」

四日市大学と四日市看護医療大学の学生と教職員で組織するボランティア団体「四日市東日本大震災支援の会」が、4月20日(金)に出発し、翌21日(土)、東松島市の仮設住宅で暮らす方々の「被害者の心のケアなどの活動」を行った。この会では、これまでに昨年の5月から東松島市でボランティアを続けており、東松島市でがれきや住宅のドロを取り除く支援などを行ってきた。活動から1年半が経過し、仮設住宅で暮らす方々から、「話し相手がほしい」「誰かに話を聞いてもらいたい」など要望があり、支援の会から四日市市へ相談をしたところ、四日市市の職員を派遣をしていただくこととなった。四日市市の保健所や危機管理室の職員8名に加わっていただき、合計15名で参加した。避難所では、健康体操やレクリエーション、保健師による健康相談を行った。また、足湯を用意し、看護医療大学の学生によるフットマッサージや用意した伊勢茶でもてなした。これには、約50名の被災地の方々が参加した。支援の会代表の鬼頭浩文教授(総合政策学部)は、「被災された時のつらい経験や現在の生活を人に話すことで、すこしは気持ちが落ち着いたのではないだろうか。今後もこの活動を継続させていきたい。」と話した。

「外国人による日本語弁論大会」で特別賞受賞

6月2日(土)、(財)国際教育振興会、国際交流基金(ジャパンファウンデーション)、大分県別府市の主催による「第53回外国人による日本語弁論大会」が開催された。本学留学生の田野さん(中国出身・経済学部3年)が出場し、「日本で生活しているものにとって気づかされるが多かったスピーチ」に贈られる、主催団体特別賞を受賞した。当日は、22ヶ国と地域117名の応募者の中から、予選を通過した11名がスピーチを行った。田野さんの弁論は7番目で、緊張した面持ちで登壇した。スピーチは、植村花菜の“トイレの神様”の歌声からはじまり、アルバイト先で経験した日本のサービス精神から「日本人の心」について考えた内容についてスピーチした。田野さんは、「今回、私が受賞しましたが、参加者のレベルが高く、誰が受賞してもおかしくなかったと思います。その中で私が受賞することができ、嬉しく思います。これからももっと日本語を勉強し、日本語のレベルアップをさせたいです。今回、訪れた別府の温泉は気持ちがよく、この経験は本当に楽しく貴重なものでした。」と感想を語った。

よっかだいエコ活動が地域イベントに参加

「よっかだいエコ活動（正式名称は四日市大学環境協働活動会議）」（以降、エコ活）は、4月21日（土）に大学近くの下野地区で開催されたイベント「竹の子ホリホリ下野っ子」に参加した。下野地区では伊勢竹鶏物語の事業展開の話があり、四日市大学との交流が始まっている。エコ活のメンバーも地域活性化イベントに協力するためと参加した。

当日は生憎の雨模様となったが、今年は筍がたくさん顔を出し、参加した皆さんは雨を忘れて筍堀りを体験。エコ活の学生は、とん汁を作り、伊勢竹鶏物語の竹っ鶏卵と共に販売し、地域の方々と会話をしながらイベントを盛り上げた。



「ETV よっかだい」がHPを公開

「ETV よっかだい」が4月にホームページを公開した。サイトはFacebook内にあり、だれでもアクセスできる。

「ETV よっかだい」は、四日市大学の学生と教員が製作する番組で、CTY（四日市のケーブルテレビ局）の協力のもと、CTYのコミュニティチャンネルで30分間放送している。このサイトには、これまでの放送分の動画も公開されている。担当者は、「みなさんに見ていただき、是非「いいね!」やコメントを書き込んでほしい。」と話している。



「ETV よっかだい」 <http://www.facebook.com/Etvvyokkadai>

【これまでのタイトル】

- ・「伊勢湾の環境と三重大学勢水丸による伊勢湾海洋調査実習」
- ・「生物多様性は本当に必要な概念か」
- ・「地球環境問題が描く怖い将来はどこまで信じられるか」
- ・「四日市大学内における自然環境学習」
- ・「三重の現場・すごいやんかトーク」
- ・「多文化共生社会を考える」
- ・「魔方阵」
- ・「四日市ご当地グルメ・トンテキを探る」 など

テニスコートがリニューアル

6月、四日市大学の硬式テニスコートが、リニューアルした。このコートは全天候型ハードコートで全面的に改修された。今回の工事は、日本のトップメーカーに依頼し見事なハードコートが完成された。

学生からは、物凄く打ちやすいとの声があり、夏季大会に向けて練習にも熱が入っている。硬式テニス部は、これまでも全日本大学対抗テニス王座決定試合全国ベスト8に2年連続で入賞するなど、実績も残しており、今後の硬式テニス部のさらなる活躍を期待したい。



これまでの Pick Up Topics はホームページでご覧いただけます。

<http://www.yokkaichi-u.ac.jp/examinee/topic.html>

または、四日市大学トップ→大学案内→
ピックアップ・トピックスをご覧ください。

<http://www.yokkaichi-u.ac.jp/>

学校法人 暁学園 四日市大学

【発行】入試広報室

〒512-8512 三重県四日市市萱生町 1200
TEL059-365-6711 FAX059-365-6630